

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2373600283
事業所名	グループホーム・ジョイフル布袋

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2) 町内会に加入し、地域情報を得てお祭りや清掃等に参加している。日々の散歩やスーパーでの買い物時、行きつけの喫茶店では地域の人々と挨拶や言葉を交わし、顔なじみの関係になっている。月1回のフットマッサージや行事の時にオカリナのボランティアを受け入れている。特養で実習生を受け入れており、希望があればグループホームの食事作り現場も見学してもらっている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3) 近隣数か所の区長や民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者等の参加を得て2カ月ごとに開催されている。高齢者いきがい課職員が参加することもある。事業所の近況報告や生活の様子、事故・ヒヤリハット報告を行っている。毎回参加者間で地域交流センターの貸し出し、法人統合、認知症カフェ、災害対策等の情報交換が活発に行われ、ホームの考え方や努力を理解することが出来る場となっている。今後地域交流センターで地域住民対象の講習会を開催したり、その講師となる事で、地域との相互協力関係を更に強固なものにされたい。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価: 4) 高齢者いきがい課の運営推進会議参加は年2回で、書類提出等で訪問した時には情報交換したり、相談事にはアドバイスもらっている。地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に参加し、特養地域交流センターでの「認知症カフェ企画」への協力を呼びかけたり、周辺地域の実情や実態把握に努めている。市主催の研修や講習会は日程が合えば参加し、ホーム内で職員に伝達している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6) 面会時や行事等で家族から意見や要望を聞いたり、年2回事業所独自のアンケートを行い、満足度の結果を会議で職員と話し合いケアや運営に反映させている。目標達成計画での意見箱の設置は検討中である。職員は月1回の「よりあい」で利用者の思いの把握に努めている。年2回家族会が開催され、家族同士が顔見知りとなり交流を深めている。ホーム便り「ほてい通信」を毎月発行し、担当者が個々の生活の様子等のコメントを添えている。家族は笑顔の写真を楽しみにしている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	認 事 項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
総合評価	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○